



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月1日

上場取引所 東

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

コード番号 2222 URL <http://www.kotobukispirits.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

TEL 0859-22-7477

四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	19,078	11.1	2,428	53.9	2,463	54.1	1,686	79.0
27年3月期第3四半期	17,164	0.2	1,578	△15.2	1,598	△14.8	942	△8.0

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 1,678百万円 (73.2%) 27年3月期第3四半期 968百万円 (△5.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	162.60	—
27年3月期第3四半期	90.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	15,854	10,184	64.2	981.77
27年3月期	14,695	8,979	61.1	865.60

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 10,184百万円 27年3月期 8,979百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	24,560	6.9	2,675	31.5	2,700	30.5	1,870	43.3	180.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	10,373,840 株	27年3月期	10,373,840 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	535 株	27年3月期	473 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	10,373,336 株	27年3月期3Q	10,373,373 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における事業環境は、インバウンド（訪日外国人旅行者）の増加の勢いは依然として力強く推移し、また、消費マインドは消費税増税の影響が一巡し、持ち直しの兆しが見られます。一方で企業間競争の激化や原材料価格の高止まりなどコスト増加が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

このような状況のもと、当社グループは『WSR』＝『ワールド サプライジング リゾート宣言』（世界へ、ありえないほどの驚きの、超感動を提供する）を経営スローガンとして掲げ、マーケット特性にマッチしたプレミアム・ギフトスイーツの提供、売場・接客サービスの向上、イベント・キャンペーン展開の推進などに取り組んでまいりました。また、当面の重点施策として首都圏エリアでのWSR展開の推進、インバウンド対策の強化、アジアを中心とした海外における事業モデルの構築などに注力いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、消費税増税の影響の一巡や6年ぶりとなる9月のシルバーウィークなど外部環境の改善傾向も追い風になり、積極的な事業施策の遂行により19,078百万円（前年同期比11.1%増）となりました。利益面におきましても、増収効果に加え、製造採算の改善や経費の効率的な使用に努めたことにより営業利益は2,428百万円（前年同期比53.9%増）、経常利益は2,463百万円（前年同期比54.1%増）となりました。また、親会社株式に帰属する四半期純利益は経常利益の増益に加え、税務上の繰越欠損金にかかる繰延税金資産の追加計上により税金費用が減少したため1,686百万円（前年同期比79.0%増）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、重要性が増した台湾北壽心股份有限公司を連結の範囲に含めております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① ケイシイシイ

「ルタオ」を擁するケイシイシイは、昨年3月にリニューアルした主力商品「ドゥーブルフロマージュ」のキャンペーン展開の推進、新千歳空港をはじめとする道内卸展開及びインバウンド対策の強化などに注力いたしました。また、海外展開では、昨年4月に韓国のパートナー企業とライセンス契約し、韓国ソウルにルタオ1号店を出店いたしました。その結果、売上高は、6,358百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益は776百万円（前年同期比31.6%増）となりました。

② 寿製菓

寿製菓は、山陰地区が低調に推移した一方、「ラングドシャ」や「フィナンシェ」など焼き菓子系商品を中心に代理店向け及びグループ会社向けの売上高が堅調に推移した結果、売上高は6,567百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は674百万円（前年同期比19.7%増）となりました。

③ 販売子会社

販売子会社は、駅・空港・SAなどの交通拠点チャンネルを中心に、主力商品及び新商品の売場獲得などに注力いたしました。主要地域では、関西地区が関西国際空港での販売強化などにより増収となったほか、福岡地区におきましても、前期投入の新商品「まっかな苺のラングドシャ」の拡販強化が寄与し、堅調に推移いたしました。その結果、売上高は3,762百万円（前年同期比10.6%増）、営業利益は282百万円（前年同期比57.5%増）となりました。

④ 九十九島グループ

九十九島グループは、昨年10月にららぽーと海老名にフレンチトースト専門店「Ivorish（アイボリッシュ）」を新規出店したほか、12月にはJR博多駅の商業施設「マイング」のリニューアルに伴い、「赤い風船マイング店」を増床リニューアルするなど、店舗ブランドの展開強化に注力いたしました。その結果、売上高は2,702百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は121百万円（前年同期比12.2%減）となりました。

⑤ 但馬寿

但馬寿は、主力商品の「遊月亭の黒豆茶」を中心に通信販売の強化に注力いたしました。その結果、売上高は808百万円（前年同期比0.1%減）、営業利益は45百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

⑥ シュクレイ

シュクレイは、「ザ・メープルマニア」をはじめとする各ブランド訴求力の向上を図るため、イベントによる店頭販促の充実、催事の推進、接客力の強化に注力いたしました。また、海外展開では香港に合弁会社を設立し、昨年12月に「東京ミルクチーズ工場」の上環（シェンワン）店を出店するなど香港での展開をスタートいたしました。その結果、売上高は、2,760百万円（前年同期比33.6%増）となり、営業利益は324百万円（前年同期比150.2%増）となりました。

⑦ その他

その他は、損害保険代理業、健康食品事業、海外（台湾）における菓子事業が含まれております。第1四半期連結会計期間より台湾北壽心股份有限公司を連結の範囲に含めたことにより、売上高は168百万円（前年同期比736.1%増）となり、営業損失は37百万円（前年同期は営業損失52百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、15,854百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,159百万円増加しました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加(820百万円)、商品及び製品の増加(194百万円)、現金及び預金の減少(119百万円)などの要因によるものです。

負債は、5,670百万円となり、前連結会計年度末と比べ45百万円減少しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加(330百万円)、借入金の減少(503百万円)、未払法人税等の増加(314百万円)、賞与引当金の減少(204百万円)などの要因によるものです。

純資産は、10,184百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,205百万円増加いたしました。主な要因は、四半期純利益の計上による増加(1,686百万円)、配当金の支払いによる減少(414百万円)などによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ3.1ポイント増加し、64.2%となり、1株当たりの純資産は981円77銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、平成27年10月26日公表数字(「業績予想の修正に関するお知らせ」)からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業活動に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組換えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,755,418	2,636,038
受取手形及び売掛金	2,337,691	3,157,911
商品及び製品	639,392	834,179
仕掛品	32,110	35,755
原材料及び貯蔵品	353,414	400,959
その他	510,800	493,640
貸倒引当金	△22,665	△36,186
流動資産合計	6,606,160	7,522,296
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,091,537	3,075,641
機械装置及び運搬具(純額)	847,733	1,058,058
工具、器具及び備品(純額)	247,631	258,524
土地	2,500,667	2,500,667
リース資産(純額)	6,475	11,831
建設仮勘定	11,385	5,163
有形固定資産合計	6,705,428	6,909,884
無形固定資産	102,565	123,468
投資その他の資産		
その他	1,297,908	1,315,026
貸倒引当金	△17,044	△15,758
投資その他の資産合計	1,280,864	1,299,268
固定資産合計	8,088,857	8,332,620
資産合計	14,695,017	15,854,916
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	807,578	1,138,098
短期借入金	1,450,000	1,150,000
1年内返済予定の長期借入金	258,672	164,816
未払法人税等	241,871	556,860
賞与引当金	441,723	237,095
その他	1,059,689	1,042,692
流動負債合計	4,259,533	4,289,561
固定負債		
長期借入金	316,513	207,350
退職給付に係る負債	920,639	967,385
その他	219,136	206,397
固定負債合計	1,456,288	1,381,132
負債合計	5,715,821	5,670,693

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	6,378,767	7,592,558
自己株式	△543	△785
株主資本合計	8,919,185	10,132,734
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	60,011	49,358
為替換算調整勘定	—	2,131
その他の包括利益累計額合計	60,011	51,489
純資産合計	8,979,196	10,184,223
負債純資産合計	14,695,017	15,854,916

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	17,164,646	19,078,219
売上原価	8,114,728	8,614,518
売上総利益	9,049,918	10,463,701
販売費及び一般管理費	7,471,540	8,034,907
営業利益	1,578,378	2,428,794
営業外収益		
受取利息	189	429
受取配当金	3,311	3,588
受取地代家賃	12,034	13,739
受取補償金	—	7,581
その他	31,997	26,454
営業外収益合計	47,531	51,791
営業外費用		
支払利息	16,304	10,259
その他	10,884	6,850
営業外費用合計	27,188	17,109
経常利益	1,598,721	2,463,476
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,809
固定資産売却益	354	525
特別利益合計	354	2,334
特別損失		
固定資産売却損	—	2,144
固定資産除却損	8,953	12,055
減損損失	11,513	8,698
特別損失合計	20,466	22,897
税金等調整前四半期純利益	1,578,609	2,442,913
法人税等	636,316	756,168
四半期純利益	942,293	1,686,745
親会社株主に帰属する四半期純利益	942,293	1,686,745

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益	942,293	1,686,745
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,461	△10,653
為替換算調整勘定	—	2,131
その他の包括利益合計	26,461	△8,522
四半期包括利益	968,754	1,678,223
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	968,754	1,678,223

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	5,167,545	3,946,530	3,400,364	2,347,812	217,526	2,065,824	17,145,601
セグメント間の内部 売上高又は振替高	738,467	2,033,037	1,935	241,352	592,549	—	3,607,340
計	5,906,012	5,979,567	3,402,299	2,589,164	810,075	2,065,824	20,752,941
セグメント利益 (△は損失)	590,140	563,953	179,624	138,873	44,307	129,763	1,646,660

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	19,045	17,164,646	—	17,164,646
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,104	3,608,444	△3,608,444	—
計	20,149	20,773,090	△3,608,444	17,164,646
セグメント利益 (△は損失)	△52,038	1,594,622	△16,244	1,578,378

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに通販基幹業務システムサービス事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額△16,244千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額479,477千円、セグメント間取引消去額16,144千円、たな卸資産の調整額△42,835千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△469,030千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シュクレイ」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産に係る減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は11,513千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	5,567,108	4,176,763	3,758,662	2,424,368	223,796	2,760,039	18,910,736
セグメント間の内部 売上高又は振替高	790,929	2,390,441	3,698	278,484	585,082	—	4,048,634
計	6,358,037	6,567,204	3,762,360	2,702,852	808,878	2,760,039	22,959,370
セグメント利益 (△は損失)	776,718	674,926	282,908	121,887	45,467	324,678	2,226,584

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	167,483	19,078,219	—	19,078,219
セグメント間の内部 売上高又は振替高	989	4,049,623	△4,049,623	—
計	168,472	23,127,842	△4,049,623	19,078,219
セグメント利益 (△は損失)	△37,200	2,189,384	239,410	2,428,794

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業並びに海外(台湾)における菓子事業が含まれております。
2. セグメント利益(△は損失)の調整額239,410千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額688,306千円、セグメント間取引消去額13,614千円、たな卸資産の調整額△41,140千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△421,370千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「九十九島グループ」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことにより、回収可能性が認められなくなった事業資産に係る減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は8,698千円であります。

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

当社は、平成27年12月15日開催の取締役会において、株式会社明治の100%子会社株式会社ロンドが保有する株式会社フランセの全株式の取得を決議し同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。これに伴い、同社は株式取得日である平成28年1月22日付で当社の子会社となりました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社フランセ

事業の内容 「ミルフィユ」をはじめとする洋菓子類の製造・販売

(2) 企業結合を行った主な理由

関東圏での展開強化及び強固な経営基盤の構築を目的としております。

(3) 企業結合日(株式取得日)

平成28年1月22日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

(5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 0%

取得後の議決権比率 100%

(7) 取得する株式の数

普通株式 230,000株

(8) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式会社フランセの株式を取得したためであります。

2. 被取得企業の取得原価

取得の対価	0千円
-------	-----

取得原価	0千円
------	-----

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用 10,000千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(多額な資金の借入)

当社は、株式会社フランセの借入金の返済及び運転資金に使用するための貸付資金として、平成28年1月21日に以下の借入を実行しております。

1. 借入先の名称

株式会社山陰合同銀行、株式会社鳥取銀行、株式会社商工組合中央金庫

2. 借入金額

1,350,000千円

3. 借入条件

固定金利

4. 実施時期

平成28年1月21日

5. 借入期間

5年

6. 担保提供資産又は保証の内容

なし